

# 京町家の中核とした未来の京都まちづくりプログラム



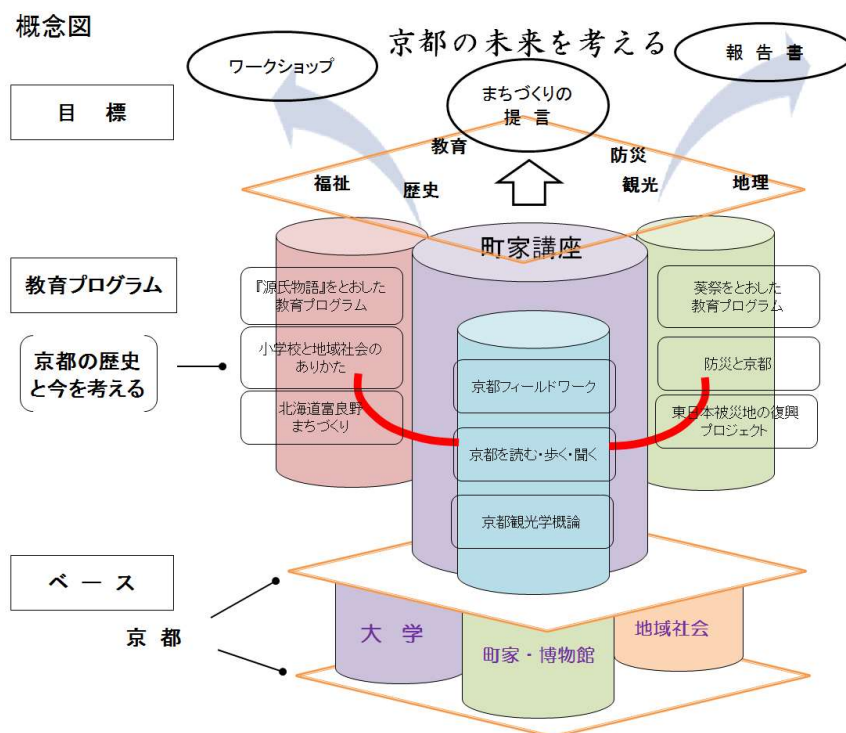
## ●2016～2019年度の取組内容

本プログラムは、本学で継続的に実施してきた京町家での「町家講座」を、既存の大学正課内外の一連の教育プログラムを連携・統合することでさらに発展させ、地域住民との交流や博物館との連携を通して複合領域から展開する地域連携型の教育プログラムである。

京都の歴史的過程と現状を、歴史学や地理学、教育や文学、観光学など、学部・学科を横断した広領域からそれぞれ「京都学」の観点でとらえ、さまざまな京都関係の正課授業を展開してきた。また、地域の理解のためフィールドワークを行ってきた。

またこのプログラムでは、北海道富良野地域でのまちづくりや、東日本大震災被災地域でのまちづくりとも比較対象させながら、先進的なまちづくりの京都へのフィードバック、地域住民と観光との関わり方、京都の町家におけるまちづくりの上記地域での発信を学生主体で行なってきた。

そうした多地域・多世代型の地域連携学習を双方向的に取り組んできた。



本プログラムの概念図

## ●達成目標

定量的目標としては、町家講座に来る来場者数を150%にすることを目標としてきた。2015年度までは年間平均130人前後であったが、学生主体の企画取り組み、大学全体の意識の向上、他大学学生の参画などもあり。2019年度は213人の参加者となり目標を達成した。また同じ町家を活用したコミュニティ・カフェにも地域住民の112人の参画が見られ、本プログラムでは4年間の助成期間を通してのべ994人の参画を得て、量的・質的両面において学生と地域住民との多角的な視点から交流を深めることができた。

## ●学内の実施体制

学内では教務部長を中心とした実行委員会が組織され、今出川・京田辺の2キャンパスにわたる組織体制で運営されてきた。教務部長を実行委員長として、京都を基軸とした正課授業、キャンパスを超えた学生のまなびの交流を推進してきた。

## ●地域連携の今後の方向性

- 1：16年間継続してきた町家講座のさらなる学生参画・交流の深化
- 2：京町家を活用した正課授業のさらなる促進
- 3：京町家コミュニティ・カフェを通じた地域連携型学習の展開促進
- 4：地域社会ー学生ーインバウンド・少人数型観光などをつなぐ  
あたらしい地域観光を通じた地域活性化モデルの構築



京都を基軸とした地域連携型・多世代・多地域型学習  
持続可能な学生の学びのモデルの醸成・展開の深化をめざす



京町家を活用した地域連携学習～学生主体のまちづくり・地域資源の再発見